

第6回 旭川市民文化会館整備基本計画検討会 会議録（要旨）

会議名 第6回 旭川市民文化会館整備基本計画検討会

開催日 令和7年6月4日（水）
午後1時30分から午後2時40分まで

開催場所 旭川市民文化会館 2階 第2会議室

出席者 参加者 全12名のうち9名出席
(敬称略) 大口 優、鈴木 雄太、西川 祐司、松倉 敏郎、
水野 雅文、南 裕一、宮田 健一、森 傑、森 禎宏

事務局 3名出席

社会教育部 文化ホール整備担当部長、副主任、主査
事務局支援 4名

国立大学法人北海道大学

会議の公開非公開の別 公開

傍聴者数 4名

会議資料 別紙のとおり

1 開会

2 議事

進行役：

- ・ 昨年度の検討会では、第1回及び第2回で建設候補地の議論を行い、第3回から第5回では2グループに分かれて、特に「どのような活動がしたいか」ということをイメージしながら、人や搬入車両の流れを踏まえ、どのあたりにどのような機能が来るのが良いかといった視点から、活動のアイデア等について議論した。
- ・ 議論の要旨は建物の形や面積といった事柄ではなく、「どんな活動が、どこで、どのような関わりのもとであるのが良いか」という点であり、この点に注目し、事務局で「活動」を表現するイメージ模型を作成した。

- ・ 壁や床などは建物の形をあまり出さないよう、透明な素材で作成し、活動の様子が浮かび上がって見えるように添景を作りこむことにより、展示を御覧になった方々に対し、そうした活動の楽しさが伝わることを意識した。
- ・ また、このイメージ模型を用いて、数回にわたる市民周知イベントを行ったと聞いている。様々な意見・反響があったということで、まず事務局から報告いただきたい。

2 (1) これまでの経過とイメージ模型

事務局：

旭川市民文化会館 1 階に移動し、イメージ模型について説明

2 (2) 市民説明・意見交換会の結果

事務局：

資料 1 「市民説明・意見交換会の結果」及び資料 2 に基づき説明

2 (3) 今後の進め方

事務局：

資料 1 「市民説明・意見交換会の結果」に基づき説明

進行役：

- ・ 資料 2 に整理された市民意見と、それを踏まえ、資料 1 で整理された今後の検討の進め方についての事務局案について説明があった。いずれも的を射た内容であり、以後の検討を進める上で重要な内容であったと評価している。
- ・ 参加者の皆様からも、展示や市民説明・意見交換会、事務局の報告をふまえ、自由に御意見・御感想をいただきたい。

参加者：

- ・ 市民からいただいたアンケートの内容について今後整理していく上で、議論が散逸しないよう、各回の検討会でテーマを絞って議論することが必要であると思う。
- ・ 市民文化会館を予約・利用する経験上、条例が制約となっている部分もあると感じる。管理運営については、今後の検討会の議論のテーマの一つとしてほしい。
- ・ 無駄な空間が多いという市民意見もあったが、これから長く使われる施設として、ゆとりのある空間が必要であると思う。

参加者：

- ・ 市民意見の中には、市民利用の視点と異なり、全国大会規模の吹奏楽コンクールや大型セミナーなど、市外の方に旭川へ来てもらい、施設を利用いただくという視点での意見もあった。
- ・ 市外の方々の方が市民より経済効果が高くなる傾向ということもあり、市外の方々旭川を訪れたいような施設とするという視点について、施設の意義について発信する際や、今後の学生など若年層の方々から意見を聞く際に伝えていってほしいと思う。

参加者：

- ・ 次の段階として、大・小ホールやコンベンションに対応できる会議室などのスペックを決めなければいけないと思う。
- ・ 今後は施設が敷地に収まるのか、大ホールはどれくらいの大きさが適切なのかなど、具体的な規模や構造について考えていく必要があると考える。

参加者：

- ・ 関係者等に意見を聞いた中では、公会堂やクリスタルホール、近隣の多機能ホールなどと連動や使い分けの考え方のもとで、市民文化会館の整備について考えていく必要があるとの意見があった。この他、3,000～4000人規模のコンベンションを開催できれば、医師会の研究会等で全国から人が集まり、市の経済面にも良い効果をもたらすのではないかと意見があった。
- ・ アンケートは若年層の回答が少なかったとのことだが、展示期間を長くしたり、小学生・中学生・高校生に向けて勉強会を開催するなど、将来施設を使用する世代の意見を集められると良いと思う。

参加者：

- ・ イメージ模型で表現された要素を参考に、その中で必要なもの、必要でないものを考えていくことができると良い。
- ・ イメージ模型の作り込みに応えられるよう、検討会では管理運営の在り方等も含め、しっかりと議論していきたい。

参加者：

- ・ 多くの人を訪れる総合庁舎からは見えにくい位置でイメージ模型の展示を開催していたこともあり、関係者しか見に来ていなかったように思う。より多くの人目に留まる場所で展示しても良いのではないかと。

参加者：

- ・ イメージ模型は、一見してこれまでの議論の内容を理解しやすいと思うので、より多くの人に見てもらえるよう、工夫が必要かと思う。
- ・ 吹奏楽の全国大会をしたいとの御意見もあったが、これを実現しようとした場合、5,000席規模の会場やトラック・バスの転回スペースなど、非常に大規模なものが必要となる。
- ・ ホールの座席については、可変式とすることについての意見もあったが、音響の事を考えると望ましくない。
- ・ 特に、小さい方のホールの座席数については、老朽化が進む公会堂や、クリスタルホールなどを今後どのようにするかについて、市としての考え方がなければ議論を進めることが難しいと思う。
- ・ また、管理運営に関しても、今は借りる際に市民優先とされているが、市民優先としないことになれば興行で活用されやすくなると思われ、この点についても、今後の議論をスムーズに進めるため、市としての考え方を示してほしい。

参加者：

- ・ 意見交換会やアンケートを通して色々な意見が出てきたが、どのような意見を取り入れていくかということが大切であると思う。
- ・ 様々な意見を取り入れ、多目的に使えること自体は良いが、過去の検討会で進行役がお話されていた『多目的ホール』が『無目的ホール』にならないように」という視点を念頭に、優先順位をしっかりと考えなければいけないと感じた。

進行役：

- ・ 今回の意見収集については、最大限の工夫はしたものの、回答者の属性について、偏ってしまった側面は否めない。
- ・ 学生や子どもたちは皆忙しく、なかなか意見を出すまでに至らないことに加え、そもそも情報が届きづらい。一方で、現在の施設利用者や事業関係者といったステークホルダーの意見は大きく出てくる。
- ・ 発言する機会がなかったり、情報を知らなかったという方や、将来施設を利用する、若い世代の方から意見を集める努力は、今後ますます重要になると思う。
- ・ また、建築はあくまで「手段」であり、皆様が重ね重ね指摘されているとおり、「目的」である管理運営、特に運営面の議論は避けて通れない。
- ・ 「本当に実現できるのか」「組織的・人材的な体力があるのか」といった点も含め、誰が運営を回していくのかという部分を考えなければ、建物について定めることはできない。
- ・ 全国のホールの事例を見ると、設計が始まった頃から管理運営の議論を始める事例が多いが、こうした方式の問題点はたびたび指摘されており、地域の実状を考慮しない、他事例の平均を取ったような設計となってしまうがちである。
- ・ 是非、旭川市ではソフト面を先行して考え、それが設計にも反映される進め方に挑戦していただきたい。
- ・ これは先程危惧されていた『『無目的』にならないように』という部分につながる点でもあり、今後、ソフト面について検討する時間を持つべきであると考えます。
- ・ また、これも検討会では何度か触れてきた話題だが、現在の施設が抱える課題や不具合を解決することは、最新の設計技術から考えると、別段難しいことではない。
- ・ 現施設の課題をベースに考えるのではなく、今後の旭川市にとって何か必要なのかを忘れずに議論を進めていくことが大切である。
- ・ 本日、「今後の進め方」として事務局から示された取組については、膨大な作業量が想定されることから、次回検討会は、2～3か月後になるのではないかと思います。
- ・ 今後、管理運営面について具体的に検討していく際に重要な根拠になると思われるので、事務局にはしっかりと取り組んでいただきたい。

3 閉会